

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 24日は、高気圧が北日本付近に移動し、低気圧が東シナ海で発生して前線が西日本にのびる。
- 25日は、低気圧は本州南岸を東へ進んで不明瞭となるが、前線が三陸沖から本州の南岸にのびる。
- 26日は、高気圧が北海道付近に移動し、日本の東から日本の南に前線がのびる。
- 27日から28日にかけて、前線を伴った低気圧が東シナ海から本州南岸を東へ進む。

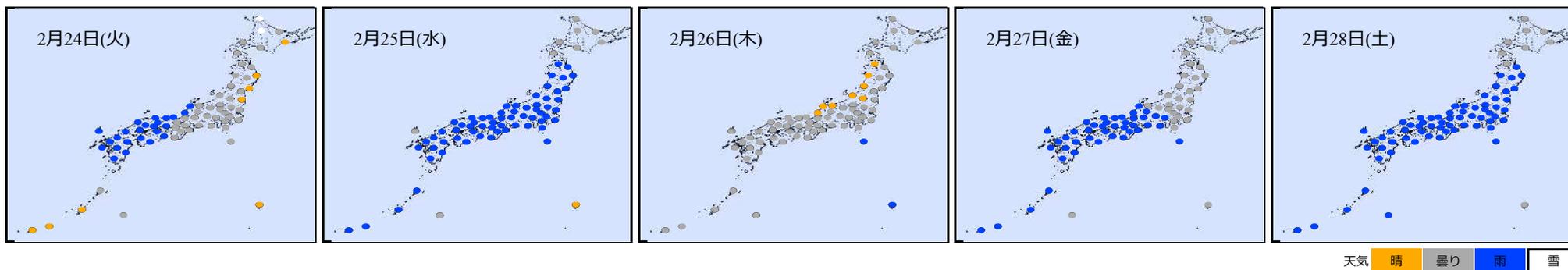
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

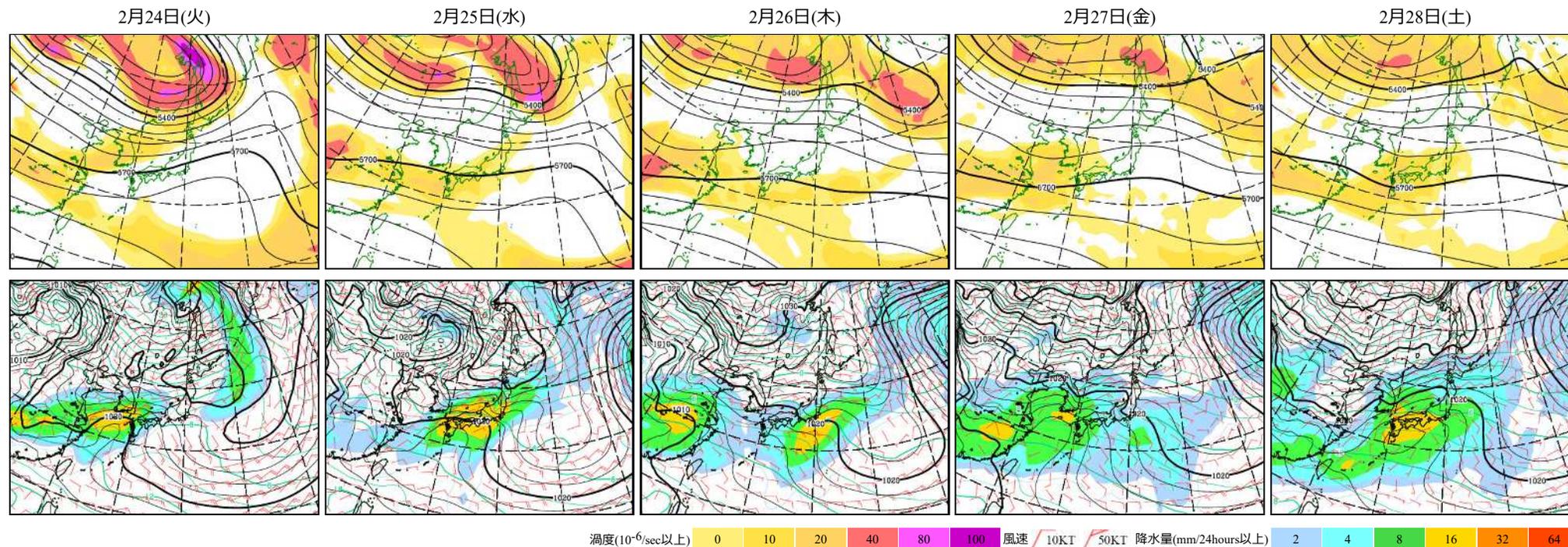
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

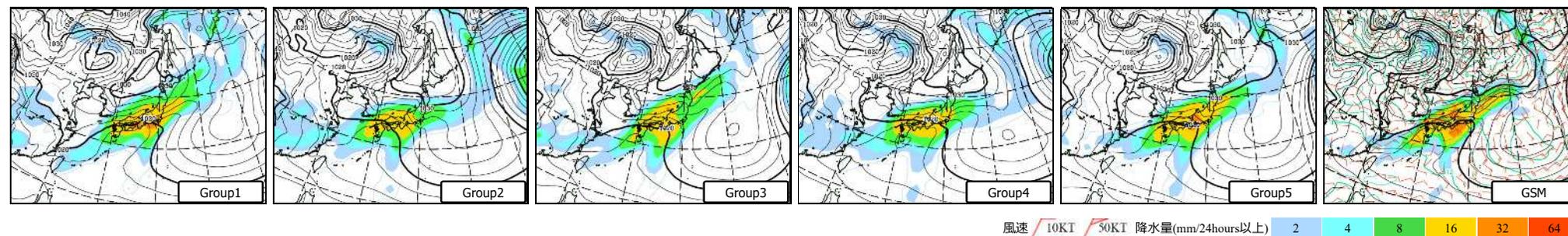


- 北日本では、曇りや雨または雪の降る日が多いが、24日と26日は晴れる所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、24日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月25日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、27日から28日にかけて本州南岸を東へ進む低気圧が明瞭となった。
- スプレッドは期間の終わりで大きく、特定高度線のバラつきも大きい。
- 25日まではモデル間の差は小さいが、26日以降はトラフやリッジの進み方などにばらつきが見られ、低気圧の位置や発達程度の違いが大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。